

発音障害の改善

鼻スピーキング・バルブ Nasal Speaking Valve (NSV)

鼻からの息もれを改善して、会話を明瞭に。

脳卒中の後遺症や、ALS等の神経疾患によって、呼気が鼻に抜けるために発音が不明瞭になる場合(鼻咽腔閉鎖不全)があります。その場合には、鼻への息の漏れを調節することで、日常生活での会話が大きく改善されます。

一般にこのような鼻咽腔閉鎖不全に対するリハビリの道具としては、下の図1のパラタルリフト (PLP)と呼ばれる装置がよく用いられます。軟口蓋を押し上げて、鼻咽腔を閉鎖する装置です。しかし、これは上顎の歯が多数ある人には使えますが、抜けた歯が多い方には使いにくいことも多く、また装着時に痛みや不快感を伴うこともあります。

従来型PLP

E: 呼気
S: 軟口蓋

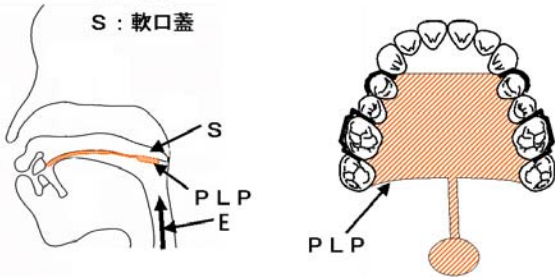


図1

NSV

NSV: Nasal Speaking Valve
E: 呼気
I: 吸気
S: 軟口蓋

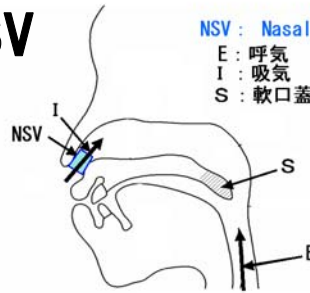
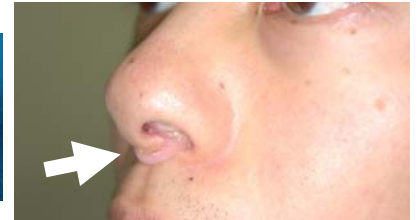


図2



自分で簡単に着脱できます

現在、図2の鼻スピーキング・バルブ(NSV)が開発され用いられています。これは、鼻孔に呼気のみを制限する弁(ご自分で取り外しのできる鼻栓のようなもの)を装着することによってリハビリを行う装置です。この装置は違和感が少ないので日常的に装着することができます。

舌の運動に障害が少ない方で、軟口蓋の機能障害が中心の方では装着直後から著効があります。来院回数は2回程度です。

【適応症の目安】 鼻をつまんで発音すると、少し声ははっきりする方

問い合わせ先: 岡山大学病院
ほてつ

補綴(咬合・義歯)科 皆木省吾, 洲脇道弘 086-235-6687

e-mail: suwakim@md.okayama-u.ac.jp minagi@md.okayama-u.ac.jp